

2010年春の沢集中・大雲取谷篇

6月5日・6日

メンバー

L：西村 章
白土 悟
劔持 久美子

R：早川 尚武

地形図：雲取山

会に復帰して、久しぶりの沢となると言うのに、直前に体調を崩し、発熱してしまい、大きな不安を抱えての入山となってしまった。再発してしまった時のエスケープばかり考えて出発した。

22：30本厚木駅集合

白土さんを自宅前でピックアップして奥多摩へ向かう。出発して一時、夕立の様な雨が降ってきた。不安な気持ちに追い打ちを掛けられる。

御岳の寒山寺駐車場の東屋にて仮泊。

5日0：30駐車場到着。

5：00起床、6：00出発。

6：50林道終点、7：30出発。

一旦林道の終点まで行ってしまったが、入渓は唐松橋からとしたのと、下山は富田新道とした事で、少し戻って登山口の駐車スペースに車を置いた。

7：40唐松橋

橋を渡り、踏み跡を辿って沢床へ降り立つ。すぐにF1が見えた。暫く見物して、巻き道に取り付いた。後で西村さんに聞いたら、「登れそうな感じがした。」との事であった。

復帰第1弾目は泥壁登りだ。ネットなど

で情報を見ると、ちょっとイヤらしい感じに表現されているが、心配した割には、普通の高巻きである。



～7：40 F1～

8：40沢中に降りる。

それでも以外とそこそこ時間が掛かってしまった。降り口がドロドロしていて、分かりにくかった為であろうか。

しばらくは、開けた感じの川原歩きが続く、ジャボジャボと水の中を出たり入ったりしながら進む。しばらくして長沢谷との合流点に着き、左へ進む。長沢谷を下降して、入渓して来るパーティーに出会った。

沢を進んでいて気になるのが、周囲の山肌が崩れているのが、かなり目に付く事である。土壌が砂礫化しており、保水力を失っていて、雨が降ると毎に崩れている様子である。下草と呼ばれる草本類や、低木類を目にする事が全く無い。辛うじてブナやハウチワカエデ等の高木類が残っているが、立ち腐れている木が多い。倒木も非常に多い。権衛谷出合近くでは、ついには大崩壊地まで現れてしまった。これらの現象については、別項に記載する事とする。

以前の遡行記録では、下部でも小滝や釜が連続していたようであるが、現状はかなり多くが、土砂に埋まってしまっている。岩の形状、地形を見ると、かつては美しいゴルジュを形成していた様に見えるが、今では見る影も無い箇所が多い。自然破壊の猛威である。



～9:30 権衛谷手前3m滝～



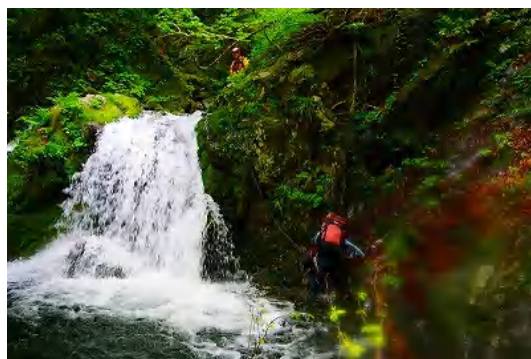
～続く5m滝～

そうは言っても、それなりに滝が現れ、そこそこ手応えを感じながら遡行を続ける。釜が出てきて、そっと入ってみると、意外に深かったりした。それでも白土さん曰く「泳ぎ足りねえ～～！」

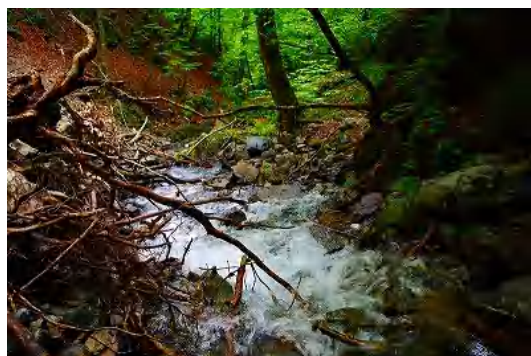
繰り返し現れる小滝を、乗り越える様に登りながら進んでいく。



～10:00 S字ゴルジュ～



～10:50 4m滝～



～振り返ると・・・～

目の前の滝を見ると、それなりの美しさであるが、来し方を振り返れば、倒木が折り重なった、荒れた溪相を見る事となる。



～12:30 8m二条の滝～

8m滝を越え、ちょうど13時となったところで、1400m地点、六間谷出合のBP予定地に到着した。本日の行動は終了である。テントを設営し、薪を集め、お夕飯の準備である。今晚は白土さんの担当。(女性だったら、いいお嫁さんになりそうだなあ)

西村さんは、しばらく続いた休肝日が解禁になり、とても嬉しそうにビール缶を開けている。実は、出発の時も既に聞こし召していて、ご気分良さそうでした。

酒仙まさに山中結庵の境地。酒あれば何の愁いあるべきか。僅か三尺の断崖、酔態に落つるも一興なり。

テントに入っても、眼鏡を掛け、ヘッドランプを付けてのご就寝、いつでも出発するぞ、の気構えですよ。私はちょっと早めに寝てしまったので、1m位の崖をポトッと落ちるところ、見損ねてしまいました。残念だなあ。(バラシちゃった。)

誰そ彼、と問う時は、空の底が宵闇に沈み始める頃。見上げれば片雲が残照に映え、茜色に染まる。袖振る人も居らず、立つ名も無ければ、と、一人思う事も無く早々にシュラフにもぐりこんだ。幸いに体調は悪くならず、安心した。

6日 5:00起床
7:20 出発
快晴

朝ご飯は鋸持さんの担当。こちらも細々と腕を振るっている。いいですねえ。

二俣を左に進み、六間谷へ入る。3m滝が2つ続き、最後のお楽しみ、2段2m+6mの滝に出る。上段は水を被るシャワークライミングとなった。



～8:00 2段の滝 白土さんリード～

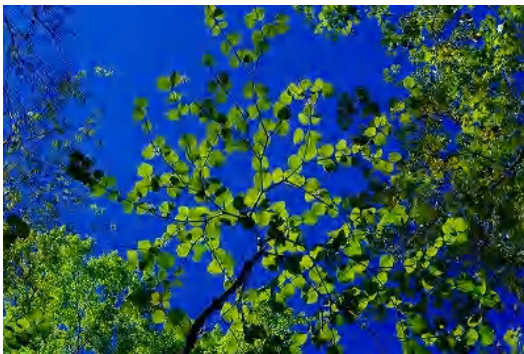
少しではあるが、冷たい水を被って、沢登りらしい感触を味わえた。



～「シャワーを楽しむお嬢様」の図～

核心部を抜けると、谷はV字状となって源流部へと続く。倒木が酷い。半ば木登りの様な格好で最後の詰めとなる。倒木が無ければ、かなり美しいV字谷と思われるのだが。

林相は、針葉樹が混じり始め、亜高山帯の雰囲気が出てきた。樹種はモミであろうか。相変わらず下草が生えていない。一部で辛うじて生き残ったヘリトリザサ（俗称クマザサ）を見つけたが、すっかり矮性化してしまっている。言葉にしようのない、極めて無惨な現状である。



～青空に映える若葉の色は、心に染み入るほどであるが・・・～

ピンポイントで山頂を狙う。気分は巡航ミサイル。頂上直下では、鹿侵入防止柵が設置されていて、それに誘導される形となってしまう、いささか興を削がれたが、と

りあえずは、目標に命中する事ができた。途中の交信で、一番時間が掛かるのではないか、と予想していた柵ノ沢チームが早くも到着しているのが分かり、驚かされてしまった。雲取山頂徒立ち一番乗り、の功名を上げ損ねた。

10:20 避難小屋前到着



～予定時間ぴったり。無事集合～

12時の集合時間ぴったり、最後のパーティーは時間を計りながら来たのであろうか。無事に集合を果たし、下山にかかる。

12:20 出発

富田新道下山

14:20 駐車スペース

大雲取谷 遊行概要図



進行する自然環境の破壊
人類滅亡まで、あと……

